

No.1

活動：ウガンダの HIV/AIDS と日和見感染症

期間：2008 年 7 月で終了



ムラゴ病院の免疫不全外来

多くの HIV 感染者が受診し、診察後には必要な薬剤の処方を受ける。

1990年代には抗ウイルス療法は実施できなかったが、2000年以降には未だ少数ではあるが抗ウイルス療法が普及しつつある。

マケレレ大学医学部附属 ムラゴ病院  
(ウガンダの首都カンパラ市)





### 髄液穿刺

AIDS 患者にとって、クリプトコッカス髄膜炎は命を脅かす日和見感染症である。診断のための髄液穿刺を実施している。



マケレレ大学医学部の微生物学教室で、喀痰細菌培養と起炎菌の分離同定を指導し、その技術を定着させた。



### 市中肺炎の臨床細菌学的研究結果を現場にフィードバックする

ムラゴ病院で喀痰細菌培養がルーチン検査となった。

ペニシリンによる短期肺炎治療が標準となった。